

必須手技の「キホン」を理解！

速攻解説・基本手技⑥

Dr. 三川の臨床メモ

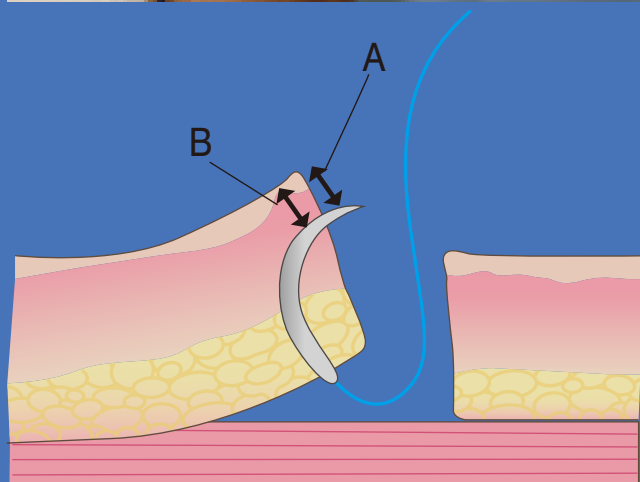
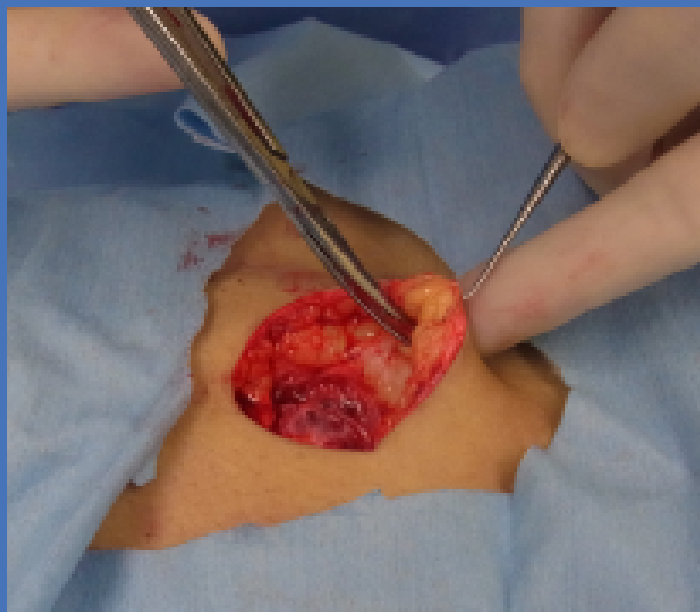
創部消毒とガーゼ交換・ 簡単な切開／排膿・皮膚縫合法のコツ

千葉大学形成・美容外科教授

三川信之 著

日本医事新報社では、
Web オリジナルコンテンツを
制作・販売しています。

▶ 一覧表示



本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

- ▶ HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。
- ▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。
- ▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は下記をご参照ください。

<https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/>

▶ 登録手続き解説

- ▶ 創部消毒とガーゼ交換の際に適切な方法を選択し、創部をより早く治す（創傷治癒を得る）ことがデキル
- ▶ 皮下の膿瘍に対して、適切な切開・排膿がデキル
- ▶ 皮膚縫合法の基本をマスターし、なるべく傷痕が目立たない創傷処理をめざすことがデキル

I .創部消毒とガーゼ交換

1. 目的

- ▶ 創傷に対する消毒の必要性の有無を理解
- ▶ 創傷、特に急性創傷の処置とガーゼ交換をマスター
- ▶ 創傷治癒促進のための適切な創傷被覆材を選択

2. 創部は消毒すべき？

- ▶ 消毒の目的は感染予防と殺菌。しかし、消毒は生体毒性を持ち、創傷治癒を妨げる
- ▶ 強力な消毒薬ほど人体への傷害が強い
- ▶ 創部を水道水などで洗うだけで感染が十分にコントロール可能であり、現在では傷を積極的に消毒する必要はないとされる
- ▶ ただし、消毒が皮膚の菌を減らすことは間違いなく、傷の縫合の際はもちろん、ドレッシングの交換時に消毒が必要なこともあり、特に感染した創部は消毒される場合が多い

3. 消毒薬の選び方

- ▶ 消毒薬は殺菌力が強い一方、毒性が高いと言える。よって、消毒薬の人

体への適用には細心の注意を払うべきである(表1)

表1 消毒薬の選び方

消毒薬	使用濃度	対象部位	備考
ポビドンヨード (イソジン [®] 、ネオヨ ジン [®] など)	原液 (10%)	手術部位の皮膚・ 粘膜 創傷部位 熱傷皮膚面 感染皮膚面	新生児や熱傷患者へ の広範囲使用を避け る
クロルヘキシジン (ヒビテン [®] 、マス キン [®] など)	0.01 ~0.5%	創部・手術部位の 皮膚	粘膜や損傷皮膚、眼 や耳には禁忌 膀胱・腔・耳へは禁忌
塩化ベンザルコニ ウム (オスバン [®] 、ザル コニン [®] など)	0.01 ~0.05%	感染皮膚面(0.01 %)、創傷部位/ 手術部位の粘膜 (0.01~0.025%)	膀胱・腔・耳へは禁忌
オキシドール (オキシフル [®] など)	原液~ 2、3倍 希釈	創傷・潰瘍、口腔 粘膜	治癒組織の潰瘍化が 生じるため、新たに 表皮が形成された部 位には用いない

4. 湿潤環境は傷の治りを促進

- ▶ 傷の治りの進行に重要なのが、表皮細胞の遊走と増殖因子 (growth factor)
- ▶ 生きた細胞は乾燥に弱く、細胞の遊走には湿潤が必要
- ▶ growth factorの保持にも湿潤が必要

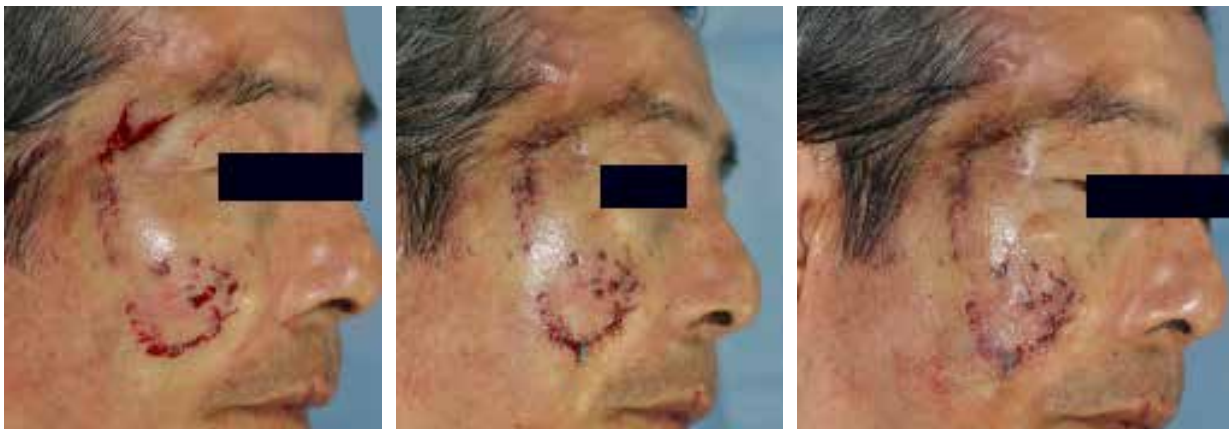
5. ウエットドレッシング

- ▶ 前述のごとく、傷は一般に、湿潤環境のほうが肉芽組織の形成と表皮化の促進が得られ、治りが早い
- ▶ 傷には自然に染み出してくる浸出液があり、浸出液の中には創傷治癒に役立つ物質が含まれているので、それを温存すべき
- ▶ 刺激のないフィルム(ドレッシング材)で覆い、閉鎖する
- ▶ ただし、感染を伴ったり壊死組織があれば、その除去が先決

6. ガーゼ交換について

- ▶ 様々な創傷被覆材（ドレッシング材）が発売されている
- ▶ それぞれに特性と適用すべき創部があるので、それをふまえて選択する
- ▶ 創部に軟膏を多めに塗布して湿潤環境とし、次に固着を避けるためにシリコンガーゼを乗せ、その上からガーゼで保護する処置が最も基本的な方法
- ▶ 創傷被覆材で閉鎖ウエットドレッシングとした場合、毎日交換の必要はなし

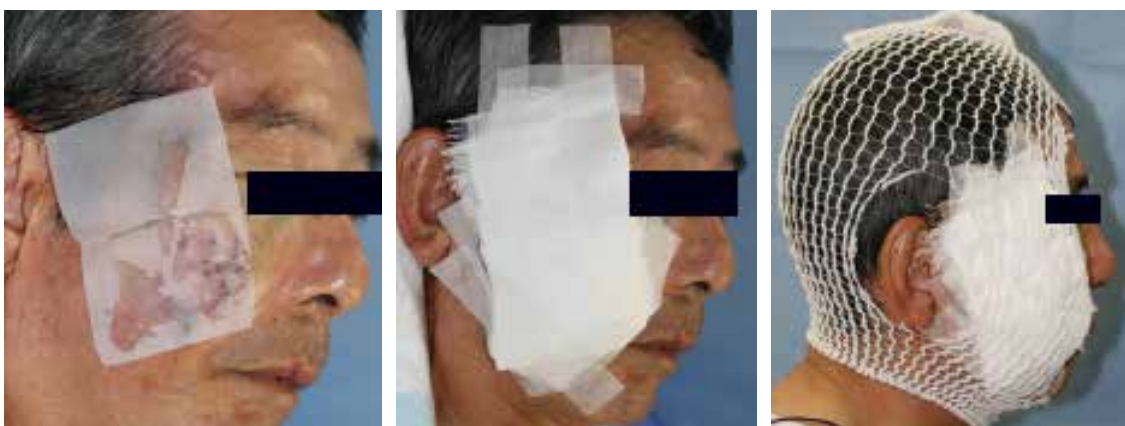
7. 顔面挫創に対する基本的な創処置 (図2)



受傷時

創縫合（皮弁状の創にはドレーンを挿入）

軟膏を塗布



シリコンガーゼを貼付

ガーゼでドレッシング

ネット包帯で固定

図2 顔面挫創に対する基本的な創処置